

一般社団法人 大学コンソーシアム熊本
令和5年度 第1回教育のあり方に関する協議会議事要録

1. 日 時 令和5年11月14日(火) 11時00分から11時40分
2. 場 所 オンライン (Zoomによる)
3. 出席者
講 師 宮崎 正義 (熊本市中央区役所 中央区まちづくりセンター)
出席者 金 栄緑 (企画・運営委員長:熊本学園大)、上野 伸一 (九看大)、
西川 毅 (九州ルーテル大)、西村 明博 (学園大)、鈴木 元 (県立大)、
内山 佳世 (代理:熊本大)、河瀬 晴夫 (熊保大)、岡原 安利 (尚綱大)、
長島 宏一 (崇城大)、橋本 成人 (東海大)、井坂 和義 (中九短)、
宇都 香織 (平成音大)、内山 裕二 (放送大)、野添 崇 (代理:熊本県)、
中村 雄大 (代理:熊本市)、三枝 敬明 (学生教育部会長)、
今村 清寿 (熊本県教育庁:代理)、荒森 靖夫 (熊本経済同友会)
欠席者 内村 秀之 (県技短)、佐藤 敏明 (熊本高専)、金岡 省吾 (熊本大)、小川 剛史 (熊本県)、
迫本 昭 (熊本市)、大谷 順 (国際交流部会長)、柳田 紀代子 (地域創造部会長)
陪席者 吉田 光太郎 (学園大)、金田 博文 (崇城大)
事務局 松村 健史 (局長)、中西 真美子 (次長)

4. 講 演

- (1) 議長 (企画・運営委員長) より講演の前に以下の発言があった。

本協議会については、大学コンソーシアム熊本 (以下、コンソ) の中期計画において、①地域の行政や産業界との連携、②教育環境の向上の指標のもと、年3回以上開催することとしている。

本日は、最初に熊本中央区役所 中央区まちづくりセンター 宮崎参事から「地域と企業等を結ぶ応援事業について」計画中の事業についてご案内をいただいた後、質疑応答の時間を設ける。その後、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」について議論の時間をとりたい。

- (2) 講演「地域と企業等を結ぶ応援事業について」

熊本中央区役所 中央区まちづくりセンター 宮崎正義氏から講演があった。

この後、以下の質疑応答・意見交換があった。

(質問) 資料P.6「地域活動に参加した市民の割合 (年齢別)」の図で、54歳までの参加率が低い中で、例外的に参加の割合が多い20~24歳は大学生とみてよいか。

(回答) 大学生もいるが、働いている方もいると思われる。無作為に選んだ方へのアンケートなので、必ずしも大学生とは限らない。

(質問) 20歳以下のデータはないか。

(回答) 今回のアンケートではデータとしてとっていない。

議長から、次の発言があった。地域と企業等を結ぶ応援事業は来年度からの運用を計画中ということである。地域が抱えている問題を産官学が一緒になって解決していくという姿勢は、コンソの目的にも合致していると思われるので、地域と個々の大学とのマッチングだけではなくそれぞれの大学の強みを活かして大学が連携した形で課題解決を行っていくということでコンソとしてもできる範囲で協力できればと考えている。

5. 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（資料2）についての意見交換

資料2の「高等教育と社会の関係」という項目にもあるように産業界との協力・連携がことに重要である。18歳人口の減少を見据え、特に、長期的な大学の在り方やその役割等について意見を頂きたいとの議長からの発言のあと、意見交換が行われた。

(議長からの意見) 高等教育のあり方については守備範囲も広く、大きな問題である。18歳人口が減少していく中で、大学の存続が一番の課題である。定員割れして大学がなくなっていくということが続いていると、高等教育のあり方どころではなくなる。大学の存続のためには、大学の進学率の問題の解消と、大学が将来的にどのような役割を社会に対して果たしていくかが最も大事である。全国の高校卒業後の平均大学進学率は大体55%くらいで、関東や関西など高いところでは63%くらいである。熊本県は47%くらいで全国35位といわれ、進学率が低い県である。大学進学率が47%くらいで、進学した生徒の中で県内の大学への進学率は48%ほどであるが、令和4年で6,900名くらいの高校生が卒業し、47%ほどが大学進学し、その中で半分以下が熊本県内に残るといことなので、かなり厳しいデータである。熊本の大学コンソから考えると少なくとも熊本県内の進学率を全国平均の55%くらいまで上げることを目標として取りかかるべき目標かと思われる。現在の47%から55%まで進学率が上がれば、約1,000名進学者が増えるだろう。その中で県内への進学率も上げていけば、700~800名くらいの高卒者が県内に残る計算となる。また、九州の他県から熊本県内に進学する生徒を増やしていく、それに加えて外国からの留学生も取り込む形で大学への進学率を上げていき、熊本県内の大学の定員を充足していく。それが達成できれば大学が存続し、そののち社会に対する貢献、地域連携が可能となり2040年の高等教育のグランドデザインに向かっていく準備ができるのではないかと、というところが高等教育のあり方についての考えである。どのように進学率を上げていくかというところにはこれという策はないので悩ましいところである。

(意見) 県内の進学率を上げていくことは、一つの方策としてコンソの中期計画の中にも位置付けられている内容なので取り組んでいかなければならないが、グランドデザイン(答申)を実現するためには、個々の大学の取組だけでは実現できない。連携協働が非常に重要である。大学間の連携はコンソにおいて現在ある程度行われているが、高等教育機関と産業界との連携が大きな課題であると強く感じている。直近では、ある企業がいろいろな大学との連携を進めていきたいとの提案を行うときに、どうしても個々の大学への依頼となっている。高等教育機関と産業界との結びつきを強くすること、連携の要望がコンソに投げかけられる体制になれば連携協働がもっと進むのではないかと期待している。次期中期計画と関わると思われるが、産業界・自治体との連携が大きな鍵になってくると思っている。

(議長) 産学官の連携が一つのキーワードである。大学間で連携を生み、これを母体として産業界・自治体と連携ができるような仕組みができればよいと思う。これはコンソの課題でもあり、重要であるので企画・運営委員会でも引き続き議論・検討していきたい。

また、コンソとして熊本県内の進学率の向上のためについても協力・連携して取り組んでいきたい。

(意見・県教育庁への質問)

熊本県の大学進学率が全国平均に対して低いということがいわれて久しいが、一つの要因として職業系の高校で優良な高校(熊本商業・熊本農業・熊本工業など)が熊本にはある。そのような高校からの就職率が大変よいので、そちらを希望して大学ではなく就職という選択をする、就職希望者には条件がよいという有利な地域性も熊本にはあるのではないかと。ただ、昔は就職に流れていた

商業系・工業系の高校から最近はずっと大学進学者が増えてきているのではないかというイメージをもっている。熊本県の教育委員会として職業系の高校から大学へ進学できるような取り組みが進んでいるのかどうか、お聞きしたい。

(県教育庁から回答)

おっしゃる通り専門系の高校の比率が熊本は他県に比べて非常に高い。普通系と専門系の高校の割合でいうと専門系の高校の比率の高さが全国でもトップクラスに入る。普通科の高校が少ないので、必然的に高等教育機関への進学率も低くなっている状況がある。商業・農業・工業系の高校からの進学率が少しでも増えればというところだが、詳細は不明だが確かに最近大学への進学は増えている。専門系の高校でも、高大連携や企業との連携活動も増えつつあるので、身近な県内の大学などとの連携事業が増えれば、専門系の高校でも大学などの学びについて認知されて県内の大学等へ目が向いていくと思われる。大学への連携活動が増えればよいと思う。

(意見) 県のデータを見ていると、高校卒業後の就職率は少しずつ下がっている。就職率は約 23%になっている。大学進学、就職をしない高校生はどこへ行くのか、不審である。コンソとして大学進学率を上げるための取り組みをいくつか行っているのを進めていく、そのあとに、産業界、自治体との連携を探っていくのが 2040 グランドデザインの対象かと思われる。

(事務局より県教育庁へ質問)

地域の普通科や専門系の高校から大学より専門学校への進学を選択するという高校生はかなりいるのかどうか、高校生の進学先として、大学と専門学校とはライバル関係にあるのかどうか、進学率を高めるために考慮に入れる必要があると思われるのでお尋ねしたい。

(県教育庁からの回答)

正確なデータが手元にあるわけではないが、専門学校に進学する高校生も一定数いると思われる。

(議長) 以上で、本日の協議会は終了する。

第2回の協議会については来年1月に開催予定なので、引き続きよろしくお願ひしたい。

以上